

クレドール(金の鍵) 使いやすい



最近の利用者様の好事例をご紹介します

① 理学療法士によるリハビリ好事例：70歳代女性

肺腺癌脳転移あり 4ヶ月で歩行器から多点杖軽介助～見守りへレベル向上した症例

左上下肢の麻痺症状悪化に伴う急激な ADL 低下があり、転倒を繰り返され、ADL 改善を目的に週 2 回 60 分でリハビリ開始となる。起立や歩行時、左下肢荷重することへの恐怖心が強く、歩行器をレンタルされるが「車輪に足をぶつけてしまう」「トイレ移動に時間がかかり出入りが大変」等の問題があり常に旦那様の見守りや介助が必要な状態だった。また急激な ADL 低下に伴い自信を失い、ネガティブな発言も多く聞かれた。

リハビリではストレッチや神経筋再教育に加え、ご本人が自信を失くさないよう難易度調整しながら更衣や入浴動作などの ADL 訓練、杖で介助歩行訓練を繰り返し行った。その結果、ズボンや靴下の着脱は動作指導で 1 週間で自立、シャワー浴は 1 ヶ月半で自立、多点杖は 4 ヶ月で見守り～軽介助で行えるようになり、ご本人からは「杖で歩けるなんてびっくり、まだまだリハビリを頑張りたい」と仰っていただいた。動作指導や反復練習の繰り返しをご本人の自信となり、恐怖心や旦那様の介助負担軽減、ADL 向上へと繋がったと考える。

② 言語聴覚士による好事例：60歳台男性

右脳出血後遺症による左片麻痺・構音障害・高次脳機能障害残存もリハビリを経て復職された症例

2022 年 7 月に右脳出血を発症。右片麻痺・構音障害・高次脳機能障害を残存するも 2021 年 1 月に自宅退院。退院後は復職を希望されていたため、言語聴覚士による発語能力の向上や注意機能・記憶力向上のためリハビリを開始。開始時は記憶力低下や注意機能低下により転倒リスクやパソコンの打ち込み作業でのミスが目立っていた。復職を目標にしておられたため、Excel での入力練習や自主トレとして早口言葉などの読み上げを実施していた。初めは早口で聞き取りにくかった会話がだんだんとはっきりとした声で話されるようになっていき、日常会話はほぼ聞き取ることができるようになる。さらに Excel 入力も徐々にミスが減り自己確認や修正ができるようになり、**2021 年 8 月には時短での復職が決まった。**

その後も主治医より言語聴覚士によるリハビリは継続した方が良いとの意見があり、高次脳機能訓練・構音訓練を継続しておられる。高次脳機能訓練では脳トレプログラムを導入し、訓練当初から約 3 ヶ月経過後、**注意機能・記憶力・空間認識力・計画力に改善見られている。**ご本人さまも仕事の流れを把握し、スムーズに出勤退社出来るようになった結果、帰宅時間が早くなったと話されている。また、新しい社内研修内容も十分覚えられるようになっておられる。

クレド訪問看護ステーション本部 ☎ 072-681-4670

阪急高槻 ☎ 072-609-5208 吹田 ☎ 06-6170-6706